

今年は学校との調整が間に合わず別々に募集をしたが、絵の得意な子、文章が得意な子それぞれなので、来年度はできれば一緒に考えている。(八王子西ロータリークラブ会長としての立場から説明)

(2) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第3ブロック研修会について

事務局より研修会の内容について報告 報告者：事務局 鶴田

日時 平成24年10月17日(土)

場所 日野市市民の森ふれあいホール

参加者 委員4名、事務局職員1名

内容
・赤レンガホールを利用した新たな生涯学習活動の取組紹介
・社会教育委員の実践活動から育まれるもの(グループ討議)

【研修会参加者の感想等】

- 加藤委員 社会教育委員とは何かということで悩んでいる方が多かった。
- 糸田委員 八王子市の生涯学習審議会委員の立場について、理解をしていたことが難しかった。生涯学習と社会教育の位置づけについて、私を含め理解していない方が多いのかと思う。
- 山崎委員 各市の取り組みの紹介があったが、本市のような取り組みをしている市はなかった。審議を行うのか、実際に活動するのかという差がある。
- 炭谷副会長 社会教育とは何か、社会教育委員は何をすべきかで悩まれているという印象を受けた。
- 三浦会長 社会教育法にある社会教育委員の職務に対して理解が異なるようである。意見や評価をする立場にある人が直接事業に携わることは支障が生じるという考えを理事会等で発信しているので、今後のあり方について議論のきっかけとなり、良い終着点が見つかるとういと考えている。
- 炭谷副会長 来年度は本市が開催市となるので、ご協力をお願いしたい。

《議事案件》

(1) 生涯学習関連事業評価について

前回(9月)の審議会で交わされた内容に基づき修正した文案を確認し、下記の意見を取り入れた内容に再修正を行うこととする。最終確認は正副会長へ預けることとし、確認後教育委員会へ提出する。

【1. 個性をいかした学習機会の充実】について

- 瀬沼副会長 実施事業の判別という表現を分別するという意味の表現へ。
- 炭谷副会長 学ぶ方向を持つ市民という表現が解り難いので工夫を。

【2. 身近な学習拠点の有効活用と連携】について

- 堀内委員 活用を考えている施設の中に学校は入らないのか。
- 炭谷副会長 利用者の視点からすると、市民の生涯学習の拠点として、学校施設を使えるような後押しをお願いしたい。

生涯学習総務課長 現在の施設状況ではセキュリティの問題がある。
堀内委員 廃校は利用できないか。
生涯学習総務課長 今までに廃校は3校あるが、既に用途が定まっている。その他余裕教室の開放を3校で実施しているが、利用率は低い。
堀内委員 多摩市では廃校の利用が盛んで9校程度実施している。

【生涯学習活動への支援と協働による学習活動】について

炭谷副会長 八王子を代表する祭りとして、八王子まつり、いちようまつりを取り上げているが、南大沢地区で実施しているフラワーフェスティバル由木も入れて欲しい。
松村委員 文中に「創意工夫により～工夫してもらいたい」という表記があるが、表現が重なるので整理を。
生涯学習総務課長 創意工夫によりを削除する。
炭谷副会長 広報は市民団体の活動などの欄が月に1回となり、チャンスが縮減されたということはこの機会に共通認識としていただきたい。
三浦会長 限られた紙面の中ではあるが、工夫が欲しいという内容に。

【成果を实践する機会の拡充】について

特に意見なし

【社会的条件の整備】について

瀬沼副会長 コーディネーターの役割はボランティアを取りまとめることが主ではないので、取りまとめということを強調しないような言い回しにした方が好ましい。
浅野委員 ボランティアのとりまとめが主業務ではない。
三浦会長 コーディネーターにもいろいろな分野があるので、全体を表すような表記が望ましい。
堀内委員 各分野のコーディネーターという表記ではどうか。(賛同の声)

【情報収集と提供のしくみづくり】

特に意見なし

【全体を通した意見】

炭谷副会長 事務局評価がほとんどA評価となっている。こういった評価の仕方は他の人が見ていかがかと思うが……。
三浦会長 来年以降の課題となるが、事務局評価のほかに審議会評価を行った方が外部から評価を貰ったというところが見える。外部評価の方が多少厳しいので、その差を埋めるためにさらに研究することにより、先へ進むことになるので、来年以降は評価の中に審議会評価も取り入れることを課題としていただきたい。

(2) 現役世代に対する生涯学習の支援のあり方について

前回の事務局説明について出された要望に対する資料の説明及び質疑応答
説明者：田代主査

小林委員 田代主査	夜間の講座は会場により参加者数に差があるのか。 講座に限らず全般的に来客数が異なるので、講座の参加者数もかなり差がある。
小林委員 田代主査	3館の開館時間は異なるのか。川口分館なども夜間講座の開講は可能か。 クリエイトホールの終了時間は午後10時、分館は午後9時半なので、物理的には可能である。
三浦会長 田代主査	昼間と夜間の比率はどうなっているのか。 23年度実績では、クリエイトホールは平日昼間33講座、夜間5講座、土日21講座、南大沢分館は平日昼間32講座、夜間1講座、土日9講座、川口分館は平日昼間20講座、夜間5講座、土日22講座です。23年度は試行的に実施しているので、南大沢分館は少し慎重になりすぎたかと思っている。また川口分館は地域的な特徴から夜間の集客が難しいという判断で、昼間に集中して実施している。
小林委員 学習支援課長	若者とは具体的には20～30代なのか、60歳未満は全部なのか。 20～30代の利用を増やす方策と、それ以上の年齢層を増やす方策は異なるということなのだろうが、それぞれの世代に対応した方策という形の意見をいただければと考えている。
瀬沼副会長	今回検討する中身は、プログラムだけの支援策なのか、就業が困難になっている現役世代を支援するための生涯学習の方策なのか。それにより、答えが変わってくる。自治体が提供するプログラムは職業・実務に関することが弱く、文化・教養・レクリエーション的要素に寄ってしまう。
学習支援課長	いくつか切り口があるかと思うので、それぞれの切り口からご意見をいただきたい。
瀬沼副会長	若い人が一番困っているところは、職業・実務に関する学習の学費である。欧米では既に定着しているが、大学等で学ぶための費用を地方自治体で助成する制度が必要と考えるが、市としてそういうことにまで取り組む用意があるのか。今後の方向として、脱プログラムを考えていただきたいがどうか。
学習支援課長	現段階では助成制度について検討をすることは難しい。次のステップに上がる時に検討課題になるのかと考える。今回は行政が用意するプログラムの内容についてということでお願いをしたい。
三浦会長	今後の方向性という意味で文章の中で触れることは必要かもしれない。
瀬沼副会長	今回はプログラム上または学習機会提供におけるといった限定での検討ということにしても、助成制度についても触れると良い答申になるのではないかと。
学習支援課長	考慮すべきこととして、付記をいただくことは可能である。
小林委員	平成19年に同じようなデータを集めたことがあり、比較をすると、50代で19年度18.2%いた市民自由講座の参加者が10.4%まで落ちている。いちよう塾では、圧倒的に50代は女性が多い。また、感心が高いものは①健康、②子育て、③料理、④心理学、

	<p>⑤語学、⑥スキルアップであった。現役世代は忙しいので、1講座の時間を2時間から1時間半へ見直したほうが、現役世代は参加しやすくなるのではないかと考える。また、いちょう塾では2・3月、7・8月が少ないので、この時期に実施するという方法もある。</p>
田代主査	配付資料の数値は、受講者全てではなくアンケート回答者のみの数値であることを補足する。
小林委員	今後は男女比を出して欲しい。内容による男女比のデータもあると参考になる。
三浦会長	今後の議論の進め方として、対象年齢層の細分化や、男女別など何らかの区分けが必要かと考えるがいかがか。
糸田委員	職業分野によっても傾向が異なるということが考えられる。
瀬沼副会長	それが、切り口ということになるのではないか。今後の審議時間によって、大きい切り口になるか、より細かい切り口で検討するかに判れる。
三浦会長	今日を含め、3～4回というところになる。
瀬沼副会長	今日が総論、次回から各論を議論すれば何とかまとまるのでは。
加藤委員	資料の時間区分が大きすぎるので、昼間というのが午前なのか午後なのかデータはないか。
田代主査	平日の講座はほとんどが午後2時から4時開催となっている。夜間は6時半または7時以降である。ほとんどが1回から3回の講座で、まれに6回というものもある。
堀内委員	回数分類した資料が欲しい。⇒次回までに準備
三浦会長	若い世代の声を直接聞ける機会が作れないか。
山崎委員	生涯学習を始めたきっかけは人それぞれで、人生を豊かに、娯楽として、スキルアップ等いろいろあると思うが、きっかけに関する八王子市民のデータはあるのか。
学習支援課長	八王子市民に関するデータはないが、総務省の調査がある。
炭谷副会長	主人公である人達の意見を聴く、生涯学習講座の企画をする人の中にヤングアダルト世代を入れることも重要である。また、若い世代の価値観を分析してみるということも必要。それによりライフスタイルに沿った形の講座の提供ができるのではないか。
松村委員	資料ウの市民アンケートは平成17年の実施で、データとして古い。もっとまめにアンケートを実施してはどうか。3月までに一度調査できないか。
学習支援課長	配付したものは、文化振興計画を策定するにあたって事前調査として実施したもので、それ以外に市で実施した調査データがないというのが現状である。それ以外に市政世論調査や市政モニターという方法があるが、年度単位で調査内容を決めているため、これからでは難しい。来年度以降2～3年の中でということであれば可能であるが、今はこの資料で検討をお願いしたい。
堀内委員	講座の企画・運営のプロセスはどうなっているのか。
田代主査	市民企画委員が考えるのは6講座のみで、その他はアンケートを見ながら職員が企画し、講師へ依頼をしている。

	<p>堀内委員 学習支援課長</p> <p>職員が考えるにあたって、外部からの意見・助言を得ているのか。過去のデータやアンケート、いちよう塾などの人気講座を参考にし、職員が考えている。担当は職員は7～8人で平均年齢は30代である。</p> <p>小林委員</p> <p>受講者アンケートの設問を増やす、過去のデータを60歳以下に特化して再集計するなど一つの手段である。</p> <p>糸田委員</p> <p>内閣府の調査で生涯学習をしていない理由に仕事が忙しいというものがあるので、企業側の取り組みについても調査すると現役世代への支援策が見えてくるのではないかな。</p> <p>三浦会長</p> <p>いちよう塾について補足すると、講座の組み方が根本的に異なる。いちよう塾は各大学で専門の先生が出した講座とそれ以外の大学関係でない講座で成り立っており、全体の講座を組む中で大学関係者と市民代表が一緒になって議論し、実施講座を決めている。市で実施する講座は全て職員が企画・運営しており、講座全体の組み立てに専門家等外部からの意見が入らないという実態があるので、広げていく手立てが必要なのではないかな。</p> <p>松村委員</p> <p>生涯学習コーディネーターをもっと活用し、職員と一緒に考えると良いのではないかな。</p> <p>瀬沼副会長</p> <p>行政主導の生涯学習はもう限界があり、これからは市民主導または市民との協働という新しいスタイルになることが必要。時代の要求・時代の流れの中で、市民が企画・提案し実行委員会が審査し採択する、市民大学形式がこれからのあり方なのではないかな。本当の意味での市民大学は八王子ではまだ始まっていないので、これから考えて行く必要がある。そういうことができる生涯学習コーディネーターを今まで養成してきているので、今後活用していくべきである。</p> <p>三浦会長</p> <p>今日は問題点の中核のところが出てきたようなので、次回は様々な切り口から審議をお願いしたい。 本日の審議は以上で終了とする。 なお、次回の日程は1月29日（火）午後6時30分からを予定</p> <p>5. 閉 会 三浦会長</p> <p style="text-align: center;">(午後9時13分)</p>
--	--

上会議録は事実に相違するところがないことを認め、下に署名する。

八王子市生涯学習審議会会長

八王子市生涯学習審議会委員